

明照学園樹徳高等学校 学校評価一覧表（令和7年度版）

評価対象		羅針盤		方策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次回への課題
		評価項目（具体的数値項目）			自己評価	外部アンケート等	総合	
I	特色ある学校づくりに努めていますか。	1	本校の教育活動（学習、学校行事、部活動、生徒会活動等）に満足している生徒、保護者がそれぞれ80%以上である。	学習面は、授業評価や互観授業等を活かし、生徒の満足度が一層高まるよう改善を図る。また、行事や部活動、生徒会活動等においては、振り返りによる改善に努める。さらに、それらの活動をホームページ等により広報の充実を目指す。	A	A	A	授業評価や生徒会を中心とした行事の活性化、働き方改革に基づいた部活動指導等が満足度を上げ、良好な結果となった。今後、更に授業や行事の充実および互観授業、系列学習等の効果的取り組みが求められる。
		2	自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。	教育活動全体において生徒の要望や考えに傾聴し、具現化しよう努める。また、教師が生徒一人ひとりを真心を込めて育てるという意識を持ち、信頼関係の構築に努める。	A	B	A	研修を通して、生徒の気持ちに寄り添うことの大切さを理解し、実践した結果が良好な評価に繋がったと考える。今後、更に教員は生徒の伴走者であることを理解し、丁寧な対応を心掛けることが必要である。
		3	毎朝の自主読書等を含め、年間30時間以上の読書を行っている生徒が80%以上である。	毎朝の「10分間読書」が自主読書に変更されたため、読書時間の減少は否めない。本来の校時表に位置付けることができればこの評価項目が活かされると考える。方策としては、国語等の授業時間に少しでも読書時間を設けるよう工夫していく必要がある。	D	D	D	現在の校時になってから「自主読書」は機能していない。職員室での朝の連絡等を簡素化し、「朝読書」の時間を確保するとともに、職員の勤務時間等の変更も検討する必要がある。
		4	「総合的な探究の時間」の学習に意欲的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	生徒が自身の興味・関心に基づいて課題を設定し、主体的に学びを深められるよう支援体制を強化する。また、教員研修の充実を図るとともに、ICT環境の整備・活用を進め、探究活動の質的向上を目指す。	C	A	B	学年別の打合せ会議を隔週で実施し、教員の資質の向上及び授業の支援等を行っている。今後、探究学習で、DXスクールで整備した高機能・ハイスpek的な実習室（クリエーターズラボ）の積極的な利用を促し、生徒一人ひとりの主体的な学びを支援していきたい。
II	生徒の意欲的な学習活動について、適切な指導をしていますか。	5	学習に主体的に取り組む、学力が向上したと感じている生徒が70%以上である。	授業に「総合的な探究の時間」で学んだ手法を積極的に導入し、授業改善に取り組む。また、学習につまずいている生徒に対し、学習進度・習熟度等に応じた課題を課す等、個別最適な学びを実現する。	A	A	A	自己評価は100%を達成しているが、外部評価との差と乖離している。一方的な授業にならず、生徒の学力に応じた授業が展開できるよう、今後も教員に授業改善を促していきたい。
		6	学習内容の定着をはかり、定期試験前や小テスト前における家庭での学習時間が平均2時間以上を目標に取り組んでいる教師が80%以上である。	定期試験のときだけでなく、日頃から単元別試験等を実施し、家庭学習の習慣と意識づけを促し、知識・理解の定着を図る。	A	A	A	各コースの実態等を考慮し、具体的数値項目を変更した。今後も進路実現に向け、生徒自身に必要な学習を考えさせ、計画させる取組を教科担任・クラス担任と連携し支援していきたい。
		7	個々の生徒の様子を観察し、クラスの特徴にあわせて授業内容を工夫するなど、生徒の興味・関心を引き出す授業を展開している教師が80%以上である。	グループワーク等を通して生徒が自主的に考察し、互いに学び合う場面を授業に取り入れ、興味・関心を引き出す満足度の高い授業を展開する。	A	A	A	評価結果が、前回と比べ、若干であるが向上している。今後も満足度の高い授業実践を目指し、互観授業の計画的な実施、教員への積極的な参観等呼びかけていきたい。
III	生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	8	1日あたりの欠席、遅刻、早退の合計人数が全生徒数の3%以内になるよう指導している教師が80%以上である。	社会人として求められる態度・行動を育むために、基本的生活習慣の定着を前提とした適切な生活指導を実践する。	A	A	A	指導を行う上で目的意識を持たせた学校生活を心掛けさせることが必要である。教員に、丁寧な声掛けや細やかな指導を引き続き実践するよう促していきたい。
		9	生徒会を中心に団結し、活気ある学校行事が運営され、学校生活が充実していると感じている生徒が80%以上である。	生徒会を中心とした生徒実行委員会を組織し、目標達成に向けた主体的かつ継続的な活動に取り組む、生徒が一体感や達成感を実感できるよう支援する。	A	B	A	生徒主体の学校行事が運営されているが、その取組は外部には伝わりにくい現状にある。積極的な情報発信に努めるとともに、生徒の活躍の場・機会をさらに設けていきたい。
		10	部活動が充実している、部活動の実績が活気ある学校生活に繋がっていると感じている生徒が70%以上である。	スポーツ・アート系列の実践をとおして、総合的な資質・能力の伸長を図るとともに、一般部活動においては、生徒の自主性を重んじ、達成感と成長が実感できる活動を目指すことで、更なる活性化を図る。	A	A	A	系列の授業日は、3年生と1・2年生とに活動にタイムラグもあり分散していた。1・2年生が活動の中心となる2学期以降は改善が期待できる。
		11	本校の実践目標である「挨拶、掃除、姿勢、言葉、動と静の交代脈動」の指導が適切に行われ、実践できている生徒が80%以上である。	学校生活に対し、意識の高い生徒が増えていく。しかし、掃除に関しては不十分な面も窺えるため、教師が率先垂範し、範を示すことで指導の徹底を図る。	B	A	B	相応な評価結果であるが、「掃除」に関しては、教員の評価が低いと思われる。今後も奉仕の精神を涵養し、自ら取り組める生徒の育成に努めていきたい。
		12	本校の学校教育目標である「感謝する心を育み、奉仕の態度を身につける」を基にした指導をしている教師が80%以上である。	浄土宗関係学校の教諭として、「共生」の精神を理解し、学校生活のあらゆる場面で感謝と報恩の大切さを説き、SHRの「信条」、「六省」を実践するよう導く。	A	A	A	本校の教育目標が根付いている成果と考える。今後も感謝と報恩を尊ぶ学校生活を指導していきたい。
IV	学校における生徒の健康・安全に努めていますか。	13	登校時指導、HRでの交通事故防止等の啓発指導を通して、生徒に注意喚起を促している教師が80%以上である。	交通事故の事例、自転車利用時のヘルメット着用等を始めとする交通規則について教師全体で共通理解を図り、HR等で指導する。また来年度から「青切符」制度が導入のため交通ルールの指導を徹底する。	A	A	A	生徒は概ね交通ルール・マナーを遵守しており、重大事故は発生していない。今後もヘルメットの着用について、継続し指導していきたい。
		14	基本的生活習慣を身につけ、日頃から健康に気を配る生活を心掛ける指導がなされていると感じている生徒が80%以上いる。	食事、睡眠、運動のバランスの取れた生活習慣について、授業やHR等を利用し、意識づけを行う。また、健康状態とストレスの関連性についても指導し、心身の健康促進を支援する。	A	A	A	生徒は、基本的生活習慣は身につけており達成できた。課題としては、食事に対する意識（栄養面）の向上があり、学校のコンビニでの販売品等も含めて、見直しが必要である。
		15	SNS上の問題点について理解と認識を促し、校内規定を遵守している生徒が80%以上である。	他者への思いやりを育む指導を実践する。他者とのトラブルの原因の一つとして、自己に固執した言動に起因する場合がある。生徒一人ひとりの心の成長を促し、より良い人間関係を構築させるとともに、SNSに関して理解を深め、適切に利用できる資質を育てる。	A	A	A	生徒や保護者は、SNSのトラブルが社会問題化している現状を十分認識できている。意識的にトラブルを引き起こす行動はないが、使い方次第では問題の惹起する事象も懸念される。引き続き、SNSの適切な利用を指導していきたい。
		16	生徒の悩み、相談等に傾聴し丁寧に対応している、また生活に関する調査を年2回以上行い、いじめの実態把握に努め、迅速かつ適切に対応している教師が80%以上である。	生徒の多角的な理解と情報共有に努め、組織的な支援体制のもと、事例に応じた迅速な対応につなげ、早期の問題解決を目指す。	A	A	A	授業を始め、教育活動のあらゆる場面で教育相談の機会と捉え、能動的な生徒指導の推進に努めていきたい。
V	生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	17	個別面談や家庭での話し合いを通して大学等の上級学校への進学、就職へ向け進路実現に努力している生徒が80%以上である。	生徒に進路ガイダンスやオープンキャンパスへの参加を促し、進路に対する意識を高める。また、面談等を通して生徒一人ひとりの課題を把握し、適切にアドバイスを行う。	A	B	A	生徒一人ひとりの進路に対する課題を把握し、適切なアドバイスをを行っている。さらに進路意識を高め、希望する進路実現が果たせるよう指導していきたい。
		18	生徒や保護者との面談などを通して、生徒が自分の将来を見据え、進路を主体的に選択できるように情報提供・指導を行っている教師が70%以上である。	進路について、必要な情報を発信し、生徒と保護者の話し合いを支援する。また、教師間の情報共有の充実を努め、生徒にとって適切な進路実現を目指し指導を行う。	A	A	A	教員間で進路に関する情報共有を行うとともに、指導方針の徹底を図り、生徒に有効な進路情報を提供していきたい。
		19	本校の学校教育目標である「毎日の生活や将来の人生を、自分で切り開いていく力を身につける」を基にした指導をしている教師が80%以上である。	進路意識を啓発する講演会等の実施や教師が自身の経験や思いを語り、意識の向上を図る。	A	A	A	学校教育目標を基盤とし、様々な教育活動を通して、生徒の進路意識の啓発を図る指導を行ってきたい。
VI	開かれた学校づくりに努めていますか。	20	学校公開（オープンスクール、授業参観等）を年3回以上実施している、学校内の状況や生徒の活躍等をホームページや広報誌等で年10回以上お知らせしていると思う生徒が80%以上である。	学校紹介、部活動体験、プレテスト、進学探究コース説明会、分野別学校説明会、個別入試相談会等、各募集行事において参加者の要望に応えられる組織的な態勢を構築する。	B	A	A	学校公開の内容・開催時期と回数、ホームページの内容を参加者・閲覧者目線の発想で検証し、より開かれた学校づくりに努めていきたい。
		21	生徒や保護者に本校のホームページや配布物等を確認するように呼びかけている教師が70%以上である。	ホームページやInstagramへの掲載を迅速かつ適性に行う体制を構築し、職員一人ひとりが本校の特色・魅力を発信できるように努める。	A	A	A	ホームページのリニューアル、Instagramの開設、運用等を進めている。職員、生徒が本校の特色・魅力を発信できるように努めていきたい。
		22	家庭に対し保護者会や面談等に積極的に参加するよう呼びかけている教師が60%以上である。	多様な家族形態が多い中、会合への出席率の高さは保護者の満足度の現れと考える。さらに文書とメール等を併用し、継続的に出席を呼びかけていく。	A	A	A	通知文の配布とメール送信を併用し、保護者に案内が確実に届くよう配慮している。また、返信の容易性・利便性等も工夫し、出席率の向上に努めていきたい。
VII	教育のデジタル化に努めていますか。	23	Chromebookによる課題の配信、スタディサプリ等の学習支援教材を活用し、生徒が主体的に学習に取り組むよう指導している教師が80%以上である。	教師が授業外の場面でも Google ツールを活用することで情報リテラシー向上を目指す。また、生徒に授業内で活用する場面を設け、家庭学習の支援、定着に繋げる。	C	C	C	生徒は端末の扱いに慣れており、教員も積極的に活用し、自主的な学びに繋げていくことで、自己評価の目標達成を目指していきたい。
		24	本校のホームページには必要な情報が掲載されていると評価している保護者が60%以上である。	各種証明書のダウンロード等、適切に行えるようにする。また、学校行事等の掲載も迅速に行える体制づくりに努める。	A	A	A	ホームページを通して、生徒・保護者に必要な情報を迅速かつ適切に提供できるようになった。今後、柔軟な運用に努め、魅力的なホームページになるよう更新していきたい。
		25	情報共有・連絡ソフト「マチコミ」やクラスルーム等を活用した情報提供、緊急連絡等の対応に満足している生徒・保護者が70%以上である。	生徒・保護者からの要望を柔軟に取り入れ、情報共有・連絡ソフト「マチコミ」やクラスルーム等を活用し、迅速に発信できるように体制づくりに努める。	A	A	A	「マチコミ」により、保護者との連絡が円滑にできるようになった。個人情報の取り扱いに十分配慮し、学年末の更新処理等を滞りなく対応したい。

【点検・評価／達成度】 A・・・十分に達成できた B・・・達成できた C・・・もう少しで達成できた D・・・達成できなかった